シンセサイザー講座

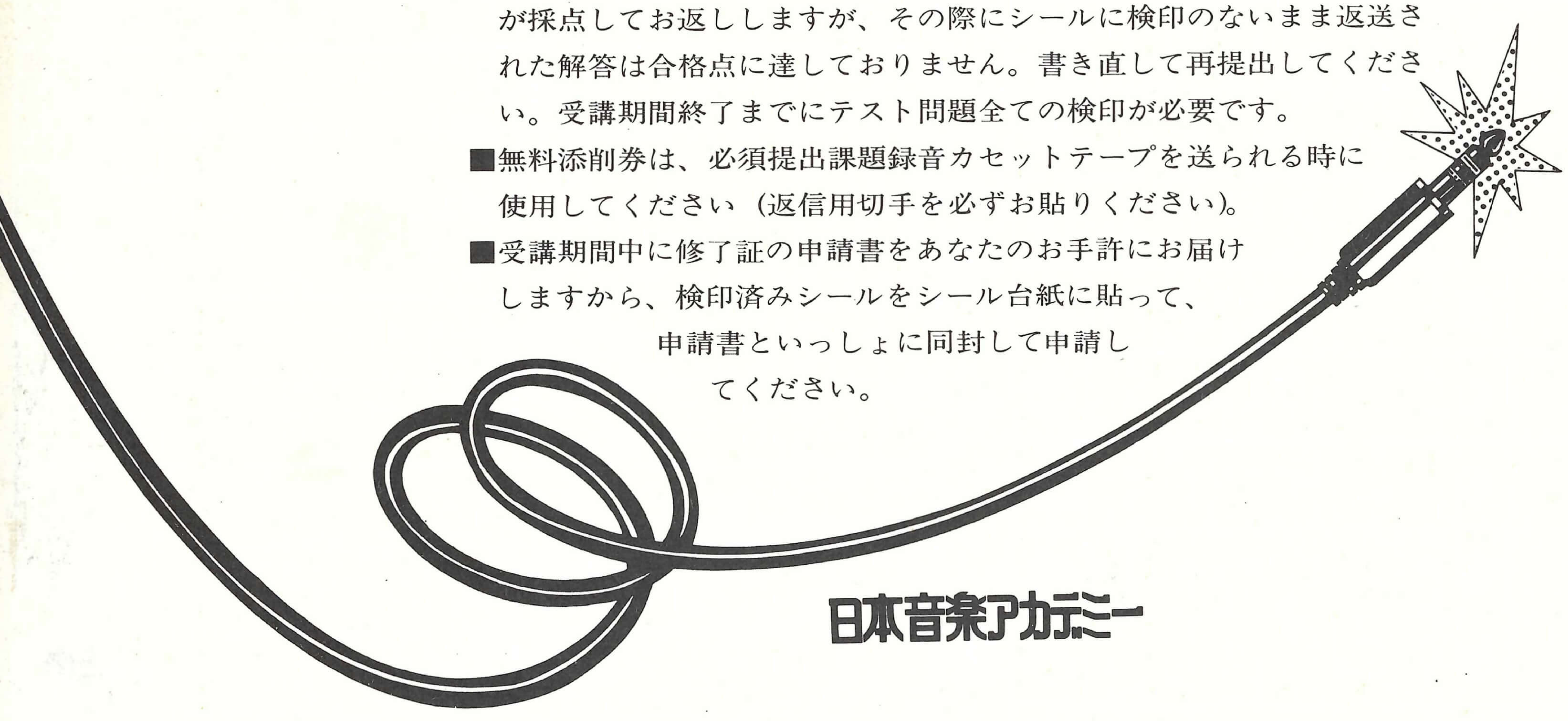
テスト問題集

■このシンセサイザー講座テスト問題集は、第１回から第４回までの問題と解答用紙、そして無料添削券（２枚）、さらにシール台紙が綴られております。

■解答は必ず指定の解答用紙に書き込んでください（返信用切手を必ずお貼りください）。お送りいただいたテスト問題の解答は、担当の先生が採点してお返ししますが、その際にシールに検印のないまま返送された解答は合格点に達しておりません。書き直して再提出してください。受講期間終了までにテスト問題全ての検印が必要です。

■無料添削券は、必須提出課題録音カセットテープを送られる時に使用してください（返信用切手を必ずお貼りください）。

■受講期間中に修了証の申請書をあなたのお手許にお届けしますから、検印済みシールをシール台紙に貼って、申請書といっしょに同封して申請してください。



日本音楽アカデミー

シンセサイザー講座

テスト問題集

日本音楽アカデミー

60.6.1

キリトリ線

返信用の切手を軽くのり付けして下さい

シンセサイザー講座 基礎編 ML-1 第1回テスト問題解答用紙

会員番号	氏名	フリガナ 年令　才	住所 〒　TEL

キリトリ線

検印シール

ML・テ-1

月　日

検

検印のないものは合格点に達しておりません解答部分を直して再提出して下さい。

1	㋑	
	㋺	
	㋩	
	㊁	
	㋭	
	㋬	

2	㋑		㋬	
	㋺		㋣	
	㋩		㋠	
	㊁		㋷	
	㋭			

3	㋑		㋬	
	㋺		㋣	
	㋩		㋠	
	㊁		㋷	
	㋭			

4	①		⑦	
	②		⑧	
	③		⑨	
	④		⑩	
	⑤		⑪	
	⑥		⑫	

5	㋐		㋔	
	㋑		㋕	
	㋒		㋖	
	㋓		㋗	

6	㋐		㋕	
	㋑		㋖	
	㋒		㋗	
	㋓		㋘	
	㋔			

シンセサイザー講座 第1回テスト問題 基礎編 ML-1

問1 次の文は、シンセサイザーの音を出すための手順を説明したものです。（　　）の中にその正しい手順を番号で記入しなさい。

㋑（　　）　シンセサイザーのパワースイッチをオンし、ＬＥＤランプが赤く点灯していることを確認する。

㋺（　　）　アンプのLINE IN端子やAUX IN端子に、付属のコードでシンセサイザーを接続する。

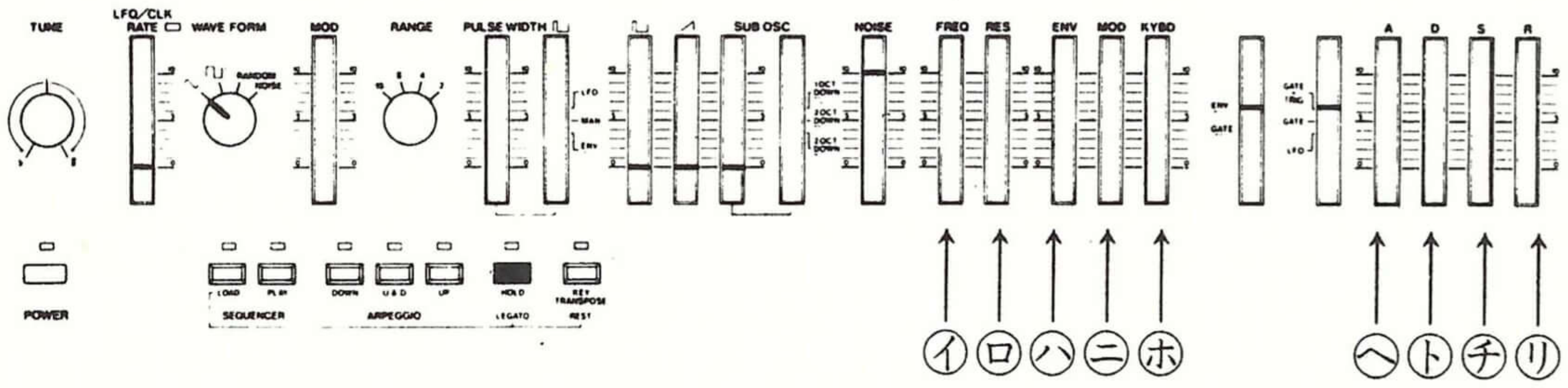
㋩（　　）　シンセサイザーを梱包から取り出す。

㋥（　　）　アンプがＲＣＡピン端子の場合は、付属のコードのアダプターを取りはずし、ピンプラグを出して接続する。

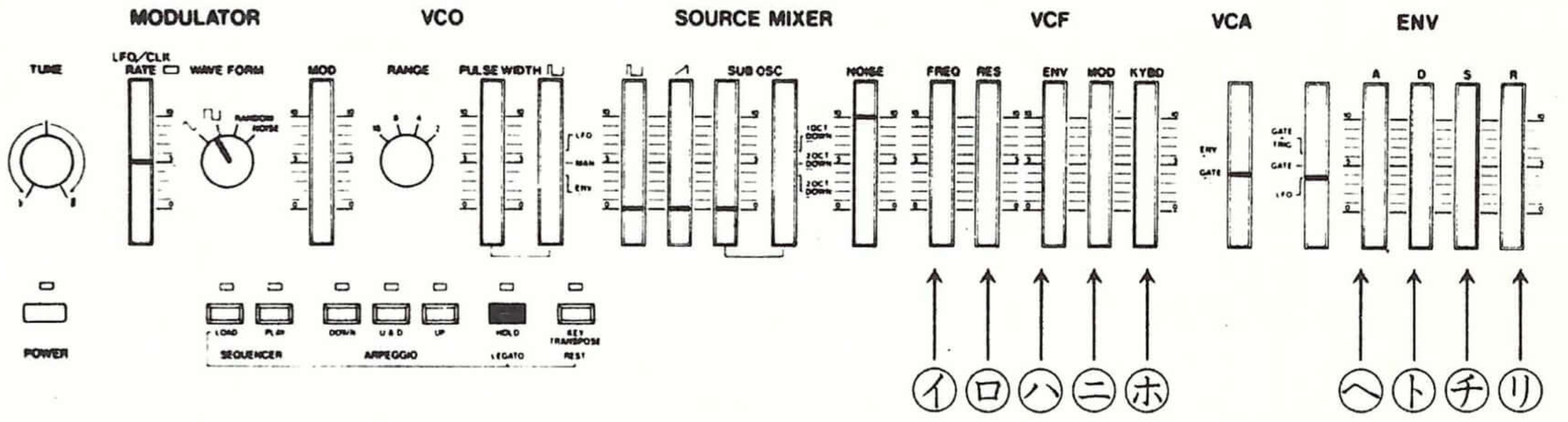
㋭（　　）　シンセサイザーに電池を入れる。

㋬（　　）　ステレオアンプの一方のチャンネルしか鳴らないのでモードスイッチをモノラルにする。ラジカセなどにはマイクミキシング端子が付いているものもあり、これをシンセサイザーのシグナルアウトと接続してもよい。

問2 下の図は、「風の音」を作るセッティングチャートですが、セッティングの一部が抜けています。それを埋め完全なものにしなさい（解答用紙には数値を記入する）。


MODULATOR
VCO
SOURCE MIXER
VCF
VCA
ENV
TUNE
LFO/CLK RATE
WAVE FORM
RANDOM NOISE
MOD
RANGE
PULSE WIDTH
SUB OSC
NOISE
FREQ
RES
ENV
MOD
KYBD
A
D
S
R
POWER
LOAD
PLAY
DOWN
U&D
UP
HOLD
KEY TRANSPOSE
SEQUENCER
ARPEGGIO
LEGATO
REST
㋑㋺㋩㋥㋭
㋬㋣㋠㋷

問3 下の図は、「ＳＬの音」を作るセッティングチャートですが、セッティングの一部が抜けています。それを埋め完全なものにしなさい（解答用紙には数値を記入する）。


MODULATOR
VCO
SOURCE MIXER
VCF
VCA
ENV
TUNE
LFO/CLK RATE
WAVE FORM
RANDOM NOISE
MOD
RANGE
PULSE WIDTH
SUB OSC
NOISE
FREQ
RES
ENV
MOD
KYBD
A
D
S
R
POWER
LOAD
PLAY
DOWN
U&D
UP
HOLD
KEY TRANSPOSE
SEQUENCER
ARPEGGIO
LEGATO
REST
㋑㋺㋩㋥㋭
㋬㋣㋠㋷

問4 次の文は、「トランペットの音作り」の説明ですが、文中の（　　）を埋め正しい説明文にしなさい。

●トランペットのサウンドは（ ① ）という吹き口があり、ここで唇が空気を震わせて音を出します。この時の振動は（ ② ）波と（ ③ ）波の中間のような波形です。ですから音源には（ ③ ）波をメインにし、それに（ ② ）波を加えます。

●パネルではソースミキサーの（ ③ ）波のボリュームを「10」に、あとは（ ② ）波のボリュームを「３」にします。さらに左隣の（ ④ ）のスイッチをＭＡＮにし、つまみを「８」にします。

●次は音色です。トランペットは音色と音量が大変関係が深いのです。そのため（ ⑤ ）で、（ ⑥ ）を強力にコントロールします。またあらかじめ（ ⑥ ）の（ ⑦ ）のつまみで音色を柔らかくしておく必要があります。

●次に（ ⑤ ）のセッティングをしましょう。（ ⑧ ）がやや遅く、（ ⑨ ）を少々もたせ、（ ⑩ ）を下げ気味にセットします。数値はＡが「1.5」、Ｄが「４」、Ｓが「3.5」、Ｒが「１」です。これでキーを押してもトランペットの音

テスト問題は裏面につづきます

はしません。音が暗すぎるのです。そこで（ ⑥ ）のENVつまみを上げ音色をENVでコントロールしてみましょう。ENVのつまみは、「8」ぐらいです。音程と音色を比例させる（ ⑪ ）のつまみも「7～8」にセットします。

●さてもう少し凝ってみましょう。音を汚してみるのです。（ ⑫ ）にはノイズのウェーブフォームがあり、これを使ってVCOやVCFをモジュレートしてやるのです。そうすると息で吹いた感じが得られます。

問5　次の文は、「猫の鳴き声」を作るセッティングの説明です。（　　）の中に適当な数値を埋めなさい。

●VCFのFREQを（ ㋐ ）ぐらいに、RESを（ ㋑ ）ぐらいまで上げ、ENVのつまみを（ ㋒ ）ぐらいに上げる。

●次にENVのつまみの設定は、Aが（ ㋓ ）、Dが（ ㋔ ）、Sが（ ㋕ ）、Rを（ ㋖ ）ぐらいにする。

●そしてBENDERのVCOとVCFのつまみを（ ㋗ ）ぐらいにセットする。

問6　次は、「小鳥のさえずり」を作るセッティングの表です。□の中に適当な数値を埋めなさい。

VCF	*FREQ*	㋐
	RES	㋑
	ENV	㋒
	MOD	㋓
	KYBD	㋔
ENV	*A*	㋕
	D	㋖
	S	㋗
	R	㋘

キリトリ線

返信用の切手を軽くのり付けして下さい。

シンセサイザー講座
応用編 ML-2

第2回テスト問題解答用紙

会員番号

氏名 フリガナ

年令　　才

住所

〒　　　　TEL

検印シール

ML・テ-2

月　日

検

検印のないものは合格点に達しておりません解答部分を直して再提出して下さい。

キリトリ線

1	①		⑥	
	②		⑦	
	③		⑧	
	④		⑨	
	⑤		⑩	
2	㋐		㋕	
	㋑		㋖	
	㋒		㋗	
	㋓		㋘	
	㋔			
3	①		⑧	
	②		⑨	
	③		⑩	
	④		⑪	
	⑤		⑫	
	⑥		⑬	
	⑦			

4	㋐		㋖	
	㋑		㋗	
	㋒		㋘	
	㋓		㋙	
	㋔		㋚	
	㋕		㋛	
5	㋐		㋕	
	㋑		㋖	
	㋒		㋗	
	㋓		㋘	
	㋔			
6	㋑		㋬	
	㋺		㋣	
	㋩		㋠	
	㋥		㋷	
	㋭			

シンセサイザー講座　第2回テスト問題　応用編　ML-2

問1　次の文は、「ソプラノの声作り」の説明です。文中の（　　）にあてはまる言葉を入れなさい。

●このサウンドの音源は（ ① ）です。そしてＶＣＯのレンジは（ ② ）にします。

●次に音色のセッティングです。まずＶＣＦの（ ③ ）を先に上げてください。これは音色にクセをつけるためです。そして（ ④ ）のつまみを「10」から順次下げていきます。あるところで「アー」と聴えるところがあるはずです。

●さて次は（ ⑤ ）です。音の出方はゆっくりとしています。また音は息の続く限り伸ばせますが、シンセサイザーでは鍵盤を押している間ずっと伸ばすことができます。これを数値で表わすと（ ⑥ ）が「3」、ディケイが「6」、（ ⑦ ）が「10」、リリースが「1」になります。

●まだこれだけでは機械的な音ですのでさらに手を加えていきます。ＶＣＦの（ ⑧ ）をほんの少し上げ、鍵盤の位置でわずかに音色が変わるようにします。さらに（ ⑨ ）の効果も加えます。このスイッチをオンすると音程がなめらかに変化します。そして音程がゆれる（ ⑩ ）を加えれば、いっそう肉声に近づきます。

問2　次は、「オルガン Ⅰ」を作るセッティング表です。□の中に適当な数値を埋めなさい。

ＶＣＦ	*FREQ*	㋐
	RES	㋑
	ENV	㋒
	MOD	㋓
	KYBD	㋔
ＥＮＶ	*A*	㋕
	D	㋖
	S	㋗
	R	㋘

問3　次の文は、「シンセドラム」の音作りの説明ですが、文中の（　　）を埋め正しい説明文に完成しなさい。

●このサウンドの音源には、（ ① ）の自己発振音を使います。ソースミキサーのつまみはすべて（ ② ）です。そして、ＶＣＦのＲＥＳを（ ③ ）にして自己発振させます。ＦＲＥＱのつまみで、その発振音の（ ④ ）が変わりますので、レベルはあまり高くせず（ ⑤ ）ぐらいに押さえておきましょう。

●ＥＮＶは、打楽器と同じようにアタックを速めに、ディケイを多少長めに、リリースもやや長めにセットします。数値は、Ａが（ ⑥ ）、Ｄが（ ⑦ ）、Ｓが（ ⑧ ）、Ｒのつまみを（ ⑨ ）にセットします。

●これだけのセッティングでは、まだ〝ポーン〟という目的の音になりません。この音は音程が（ ⑩ ）に比例し

テスト問題は裏面につづきます ⇩

て変化すれば作り出せるのです。そのためVCFの（ ⑪ ）のつまみを少しずつ上げていくと徐々に、ポーンという感じの音になってきます。

●また、このリズム音が、鍵盤で（ ⑫ ）が変わると、おもしろくなります。これを作り出すために、VCFのKYBDのつまみを（ ⑬ ）にします。

問4 **次の文は、「シンセサウンドⅠ」の音を作るセッティングの説明です。（　）の中に適当な数値を埋めなさい。**

●ソースミキサーのパルス波と、サブオッシレーターは、2つとも（ ㋐ ）にする。

●VCOのレンジは（ ㋑ ）で、パルスワイズは、LFOのモードで、つまみは（ ㋒ ）ぐらいにする。

●モジュレーターのレートは（ ㋓ ）ぐらいにする。

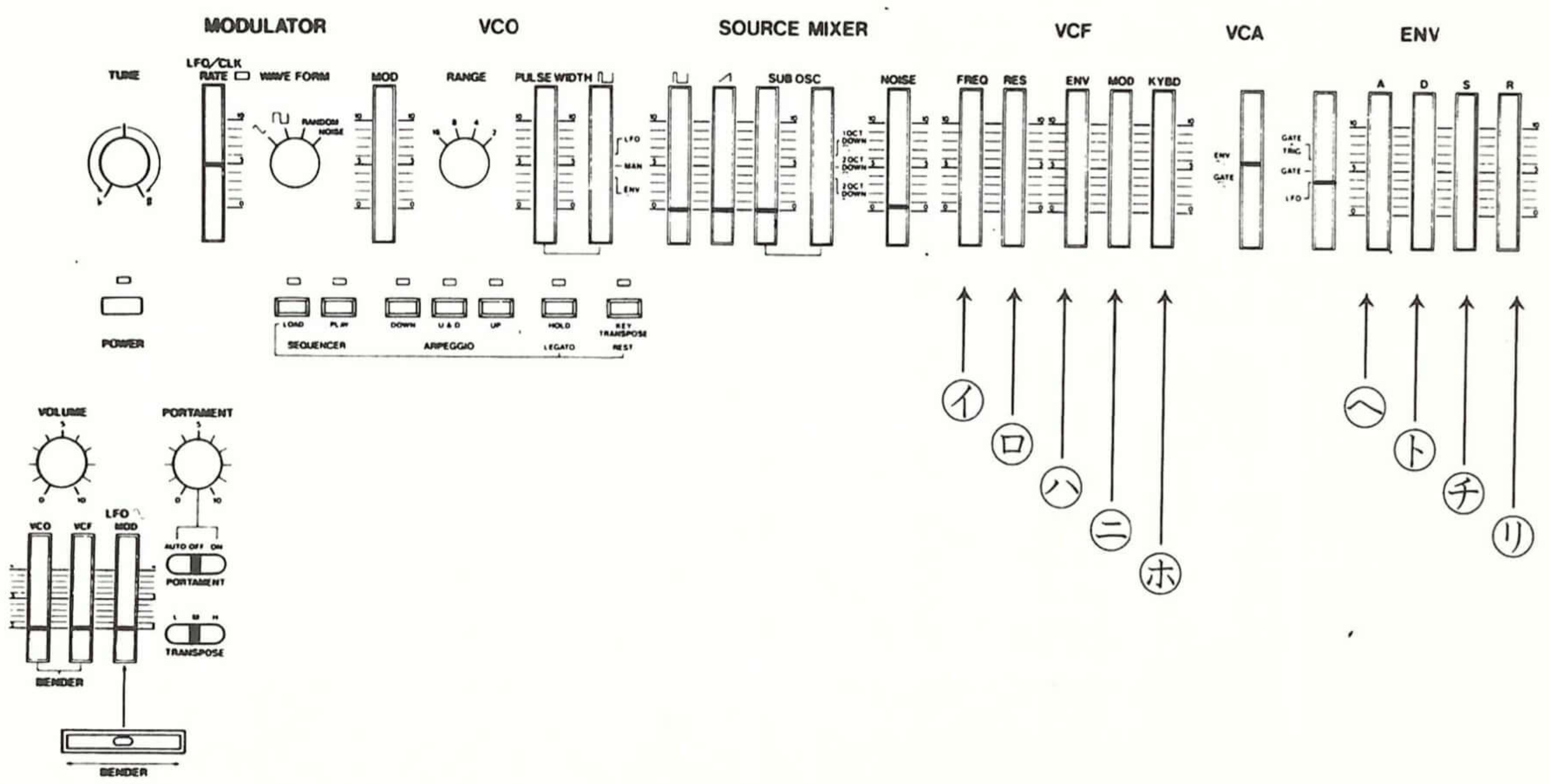
●音色は、レゾナンスのつまみを（ ㋔ ）ぐらいにし、FREQを（ ㋕ ）ぐらいにする。KYBDのつまみは、鍵盤で音色が（ ㋖ ）パーセント変化するようにする。

●ENVは、Aを（ ㋗ ）、Dを（ ㋘ ）、Sを（ ㋙ ）、Rを（ ㋚ ）にする。この信号でVCAとVCFをコントロールし、VCFのENVのつまみを（ ㋛ ）ぐらいにして音が〝ビャーン〞と変わるようにする。

問5 **次は、「UFO」の音を作るセッティング表です。**
□の中に適当な数値を埋めなさい。

VCF	FREQ	㋐
	RES	㋑
	ENV	㋒
	MOD	㋓
	KYBD	㋔
ENV	A	㋕
	D	㋖
	S	㋗
	R	㋘

問6 **下の図は、「ゆうれいサウンドの音」を作るセッティングチャートですが、セッティングの一部が抜けています。それを埋め完全なものにしなさい（解答用紙には数値を記入する）。**


MODULATOR
VCO
SOURCE MIXER
VCF
VCA
ENV
TUNE
LFO/CLK RATE
WAVE FORM
RANDOM NOISE
MOD
RANGE
PULSE WIDTH
LFO
MAN
ENV
SUB OSC
1OCT DOWN
2OCT DOWN
NOISE
FREQ
RES
ENV
MOD
KYBD
ENV
GATE
GATE TRIG
GATE
LFO
A
D
S
R
POWER
LOAD
PLAY
DOWN
U & D
UP
HOLD
KEY TRANSPOSE
SEQUENCER
ARPEGGIO
LEGATO
REST
VOLUME
PORTAMENT
VCO
VCF
LFO MOD
AUTO OFF ON
PORTAMENT
TRANSPOSE
BENDER
BENDER
㋑
㋺
㋩
㋥
㋭
㋬
㋣
㋠
㋷

キリトリ線

返信用の切手を軽くのり付けして下さい

シンセサイザー講座 実践編 ML-3 第3回テスト問題解答用紙

会員番号	氏名	フリガナ 年令　　才	住所 〒　　　TEL

検印シール

ML・テ-3

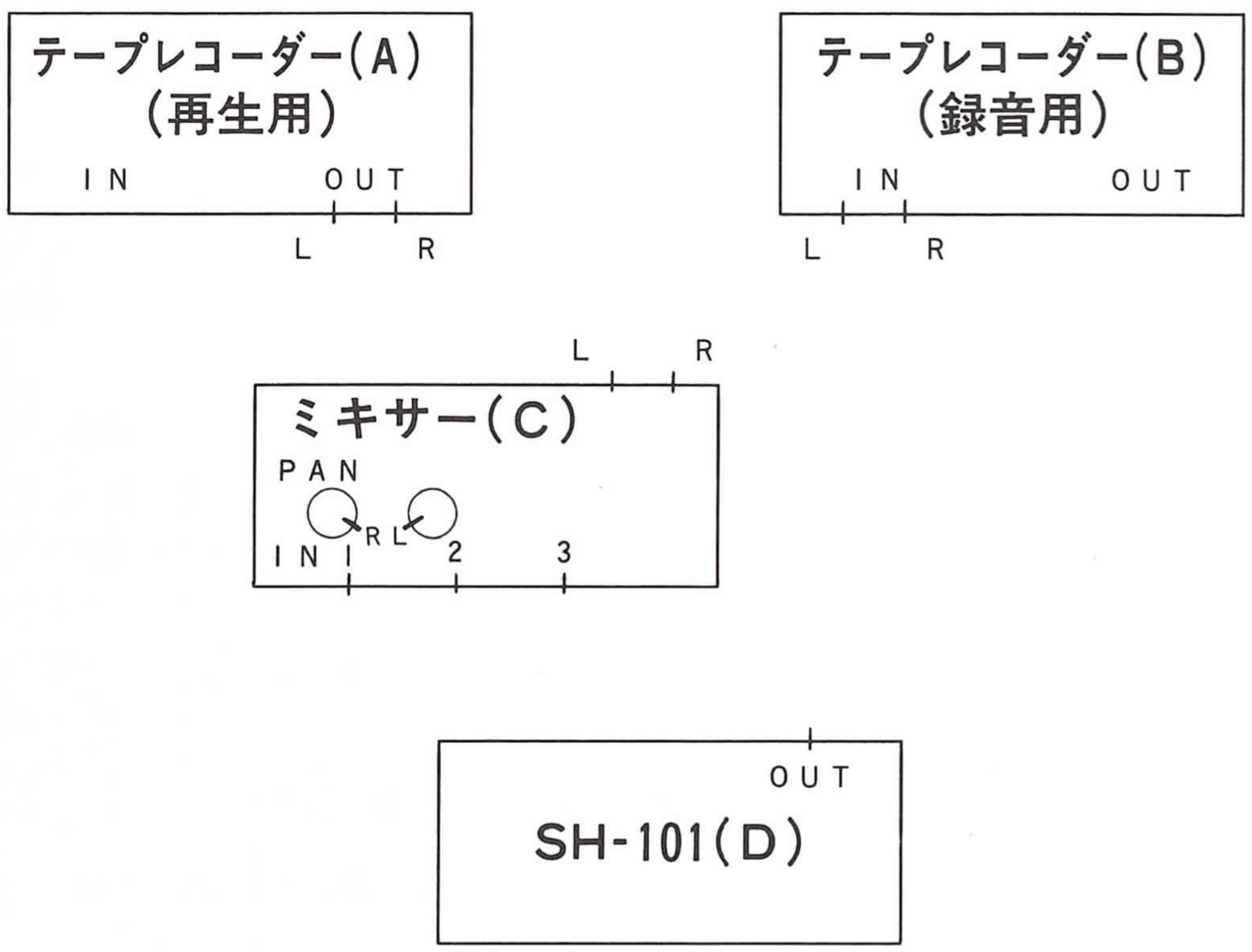
月　日

検

検印のないものは合格点に達しておりません解答部分を直して再提出して下さい。

キリトリ線

1



テープレコーダー(A)
(再生用)
IN
OUT
L
R
テープレコーダー(B)
(録音用)
IN
OUT
L
R
L
R
ミキサー(C)
PAN
R L
IN 1
2
3
OUT
SH-101(D)

2

①		⑥	
②		⑦	
③		⑧	
④		⑨	
⑤		⑩	

3

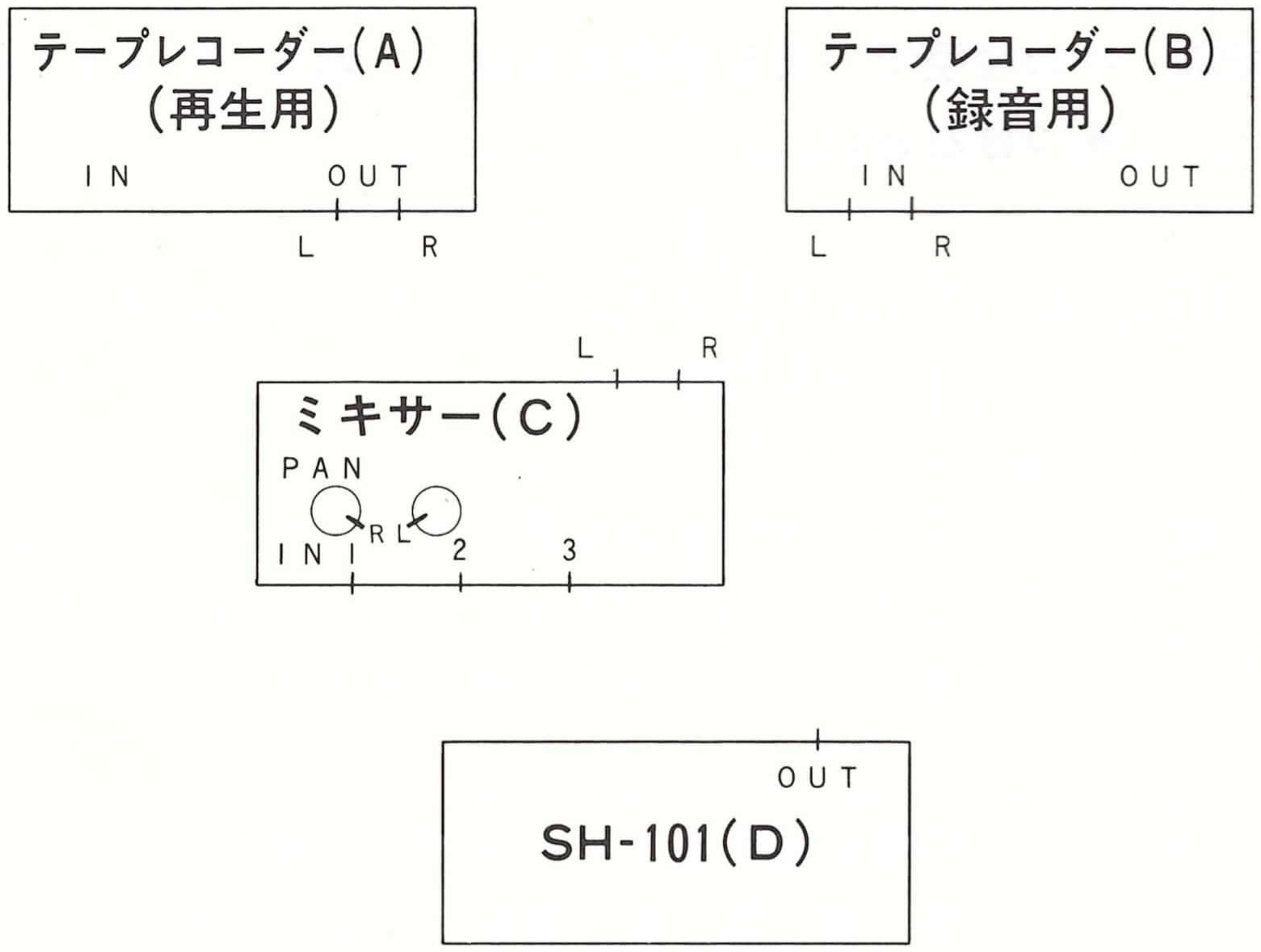
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

4

㋑	
㋺	
㋩	
㋥	
㋭	
㋬	
㋣	

シンセサイザー講座　第3回テスト問題　実践編　ML-3

問1　**下の図は、多重録音のテープレコーダーとミキサーの結線図ですが、それぞれの機材間の配線を行い、多重録音ができるようにしなさい。（ヒント：再生用のテープレコーダーはアウト、録音用のテープレコーダーはインだけを使用する）**



問2　**次の文は、シンセサイザーの周辺装置についての説明ですが、［　　］の中をⓐ～ⓚから選んで埋めなさい。**

●シーケンサー

シーケンサーはＳＨ－１０１にも内蔵されていますが、より高度な［①］をしたい時は外部のシーケンサーが役にたちます。

●リズムマシーン

リズムマシーンは、以前はせいぜい電子オルガンのおまけ程度にしか考えられていませんでした。ところが自分で［②］を［③］できるもの（例えばＴＲ－６０６）が出現し頼りになる楽器となりました。

●フェーザー／フランジャー

フェーザーやフランジャーはともに［④］を周期的に変化させるエフェクターです。このフェーザーやフランジャーは音をごくわずかに［⑤］てやり、それを再び原音とミックスすることで音色の変化をつけるのです。しかしフェーザーとフランジャーは違ったサウンドになります。フェーザーは音に移動感や［⑥］を与え、フランジャーは［⑦］なサウンドになります。

●コーラス／エコー／ディレー

コーラスというエフェクターはフランジャーによく似た仕組みです。異なる点は、遅れる時間がフランジャーより［⑧］なっていることです。フランジャーは原音とミックスした時に１つの音に聴こえますがコーラスは２つの音に分れて聴えるのです。また遅延時間を周期的に長くしたり、短かくするとエフェクトされた音の音程が［⑨］します。

音を遅らせるエフェクターはそれだけではありません。もっと広範囲に音の遅れを作り出すエフェクトも音作りには大きな武器となります。エコーとか［⑩］と呼ばれるエフェクターがこれです。

ⓐディレー
ⓑイコライザー
ⓒ自動演奏
ⓓ音　色
ⓔプログラム
ⓕ鋭い無機的な
ⓖリズムパターン
ⓗずらせ
ⓘ回転感
ⓙ長　く
ⓚ上ったり、下ったり

テスト問題は裏面につづきます

問3　次の文は、ＭＴＲの仕組みの説明ですが、（　　）の中をⓐ～ⓙから選んで埋めなさい。

●多重録音とは１つの録音の上にさらに新しい録音を重ねていくテクニックです。普通のカセットレコーダーでは１度録音したテープの上に重ねて録音しようとすると前の音は消されてしまいます。多重録音ではそれを防ぐために（ ① ）という特別なテープレコーダーを使用します。

●私たちの使用するテープレコーダーには片道に右と左の音が録音できる２本の帯があり、さらにテープを裏返せばまた2本あり計4本の帯があります。この帯のことを（ ② ）と呼びます。多重録音用の（ ① ）はこの（ ② ）が多くあります。

●もうひとつの特色はテープレコーダーの重要なパーツである（ ③ ）にあります。カセットデッキでは一般的には録音（ ③ ）と再生（ ③ ）が一緒になった（ ④ ）が使われています。（ ① ）も同じ構造をしていますが特に（ ⑤ ）と呼んでいます。この（ ⑤ ）は録音（ ③ ）と再生（ ③ ）にも変ることができますが、ただしカセットデッキとは違います。（ ④ ）は（ ⑥ ）ボタンを押すとすべてのトラックが録音ヘッドになり、（ ⑦ ）ボタンを押すとすべてのトラックが再生ヘッドとなります。しかし（ ⑤ ）の役割りはそうではありません。好きなトラックだけをボタン操作で録音にも、再生にも（ ③ ）の働きを変えることができます。ですから１つの（ ② ）ではベース音を再生し、その音を聴きながら別の（ ② ）にオルガンの音を録音することができるわけです。

ⓐトラック
ⓑレコード
ⓒポーズ
ⓓマルチ・トラック・レコーダー
ⓔヘッド
ⓕチャンネル
ⓖプレイ
ⓗシンクヘッド
ⓘ録／再ヘッド
ⓙ消去ヘッド

問4　次の説明で、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

㋑（　）　ディレーというエフェクターは主に音色のコントロールを行なう。

㋺（　）　イコライザーは音質のコントロールを行なうエフェクターで、パラメトリックイコライザーと、グラフィックイコライザーがある。

㋩（　）　残響を作り出すリバーブは、音がワーンと残り、後の音と混じると音がにごるので使わない方がよい。

㋥（　）　リバーブは音響を豊かに響かせるエフェクターであり、シンセサイザーにはかかせない。

㋭（　）　ＭＴＲがないと多重録音を楽しめないわけではなく、普通のレコーダーが２台あれば、簡単な録音ができる。

㋬（　）　シーケンサーは自動演奏装置だが人間の演奏の方が正確である。

㋣（　）　シーケンサーは同じ長さの音符しか、プログラムできない。

キリトリ線

返信用の切手を軽くのり付けして下さい

シンセサイザー講座 理論編 ML-4 第4回テスト問題解答用紙

会員番号	氏名	フリガナ 年令　　才	住所 〒　　　　TEL

キリトリ線

検印シール

ML・テ・4

月　日

検

検印のないものは合格点に達しておりません解答部分を直して再提出して下さい。

1	①		⑥	
	②		⑦	
	③		⑧	
	④		⑨	
	⑤			

2	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	

3	Ⓐ	
	Ⓑ	
	Ⓒ	
	Ⓓ	

4	①		㋐	
	②		㋑	
	③		㋒	
	④		㋓	
	⑤		㋔	

5	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
	⑦	
	⑧	
	⑨	
	⑩	

シンセサイザー講座 第4回テスト問題 理論編 ML-4

問1　次の文の□の中をⓐ～ⓘから選んで埋めなさい。

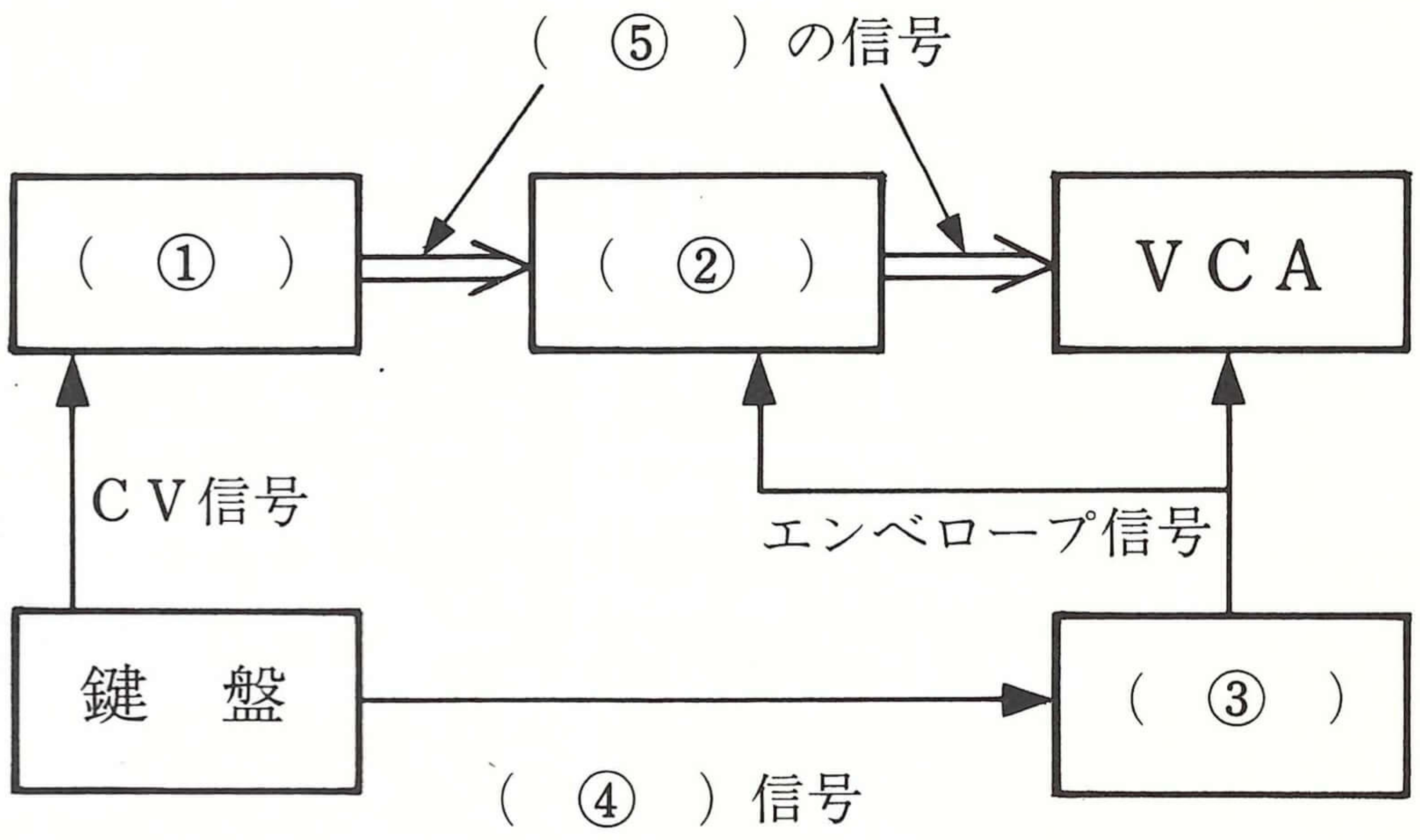
音には3つの要素（［①］［②］［③］）があります。これを電圧によってコントロールできれば楽に音が作れるのではないかと考えてシンセサイザーは誕生したのです。3要素の中の［①］をコントロールしているのが［④］です。VCというのは電圧によってコントロールされているということを示しています。シンセサイザーにはあと2つのVCのつくモジュールがあります。［⑤］と［⑥］がそれです。

［⑤］は3要素の中の音色担当班、［⑥］は音量担当班です。

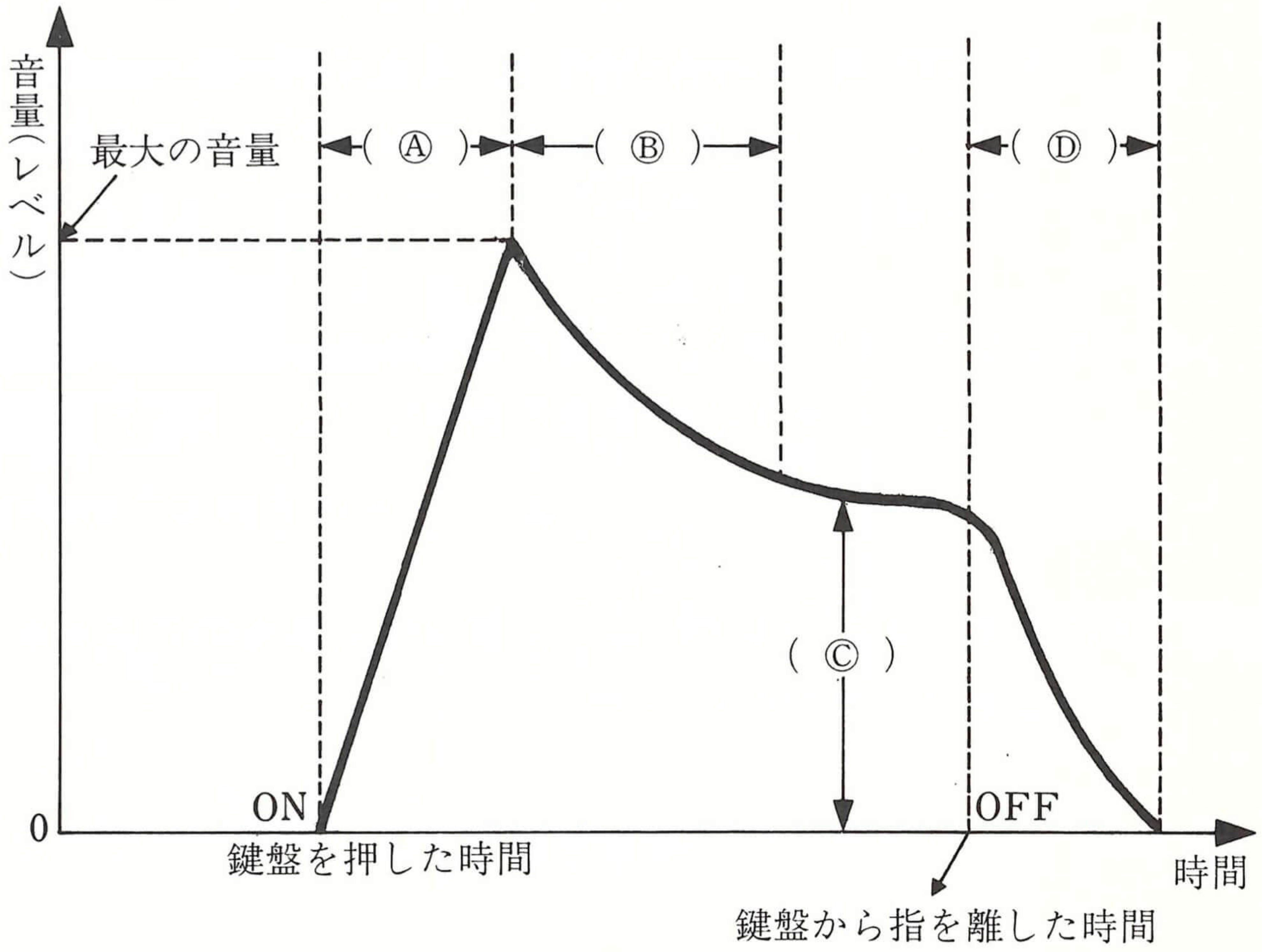
これがシンセサイザーの重要なモジュールですが、もちろん電圧信号を作り出すコントローラーが必要です。音階を作る［⑦］もコントローラーの1つです。その他［⑧］（音の出方、消え方を決める）や［⑨］（周期的な変化を作りだす）があり、キチンと接続されています。

ⓐＶＣＡ
ⓑ鍵　盤
ⓒ音　量
ⓓＥＮＶ
ⓔ音　色
ⓕＶＣＦ
ⓖ音　程
ⓗＶＣＯ
ⓘＬＦＯ

問2　次の図は、シンセサイザーのブロック図ですが、（　　）の中を埋めなさい。

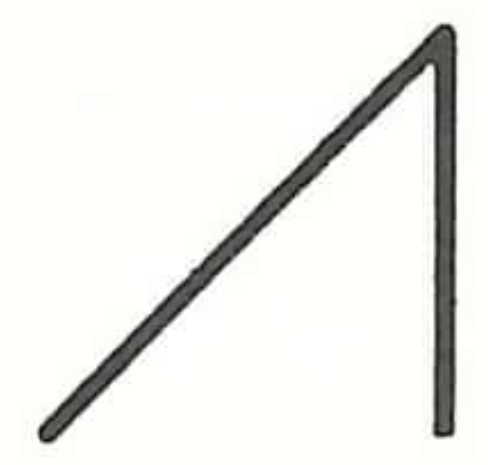
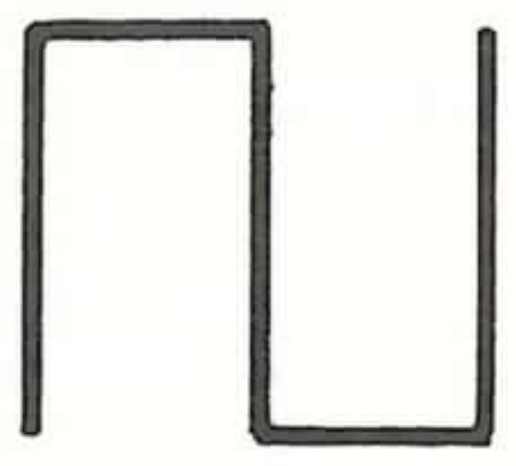
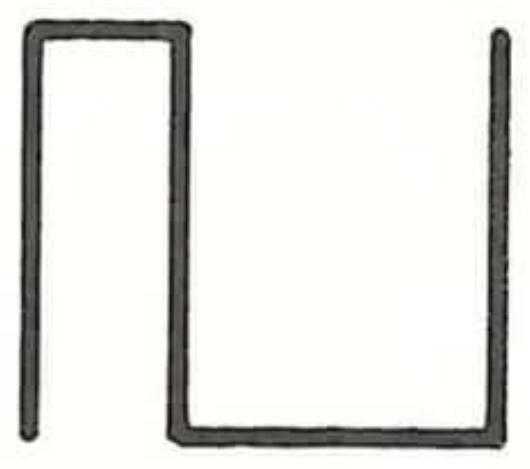
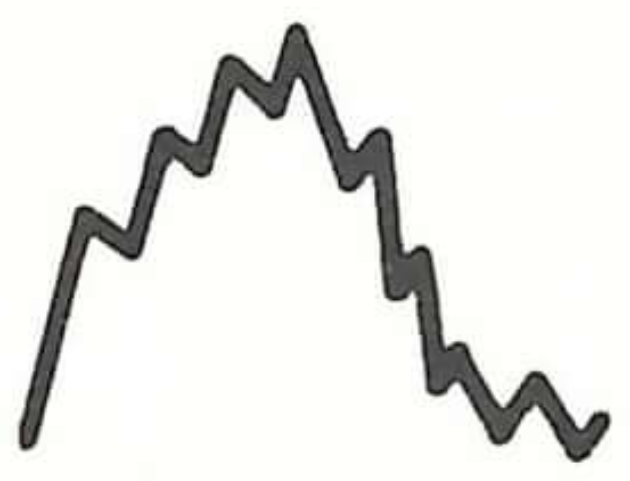

（　⑤　）の信号
（　①　）
（　②　）
ＶＣＡ
ＣＶ信号
エンベロープ信号
鍵　盤
（　③　）
（　④　）信号

問3　次の図は、ＥＮＶの出力の図ですが、それぞれの名称を書き入れなさい。


音量（レベル）
最大の音量
（Ⓐ）
（Ⓑ）
（Ⓓ）
（Ⓒ）
0
ON
鍵盤を押した時間
OFF
時間
鍵盤から指を離した時間

テスト問題は裏面につづきます

問4　ＶＣＯの出力には各種の波形がありますが、下表の波形の名称の（　　）の中を埋め、その音の特長の（　　）の中をⓐ～ⓔから選んで埋めなさい。

	1	2	3	4	5
表示及び波形					SUB
名称	（ ① ）	（ ② ）	（ ③ ）	（ ④ ）	（ ⑤ ）
特長	（ ㋐ ）	（ ㋑ ）	（ ㋒ ）	（ ㋓ ）	（ ㋔ ）

ⓐ　風の音や波の音などに使われ、雑音源で「ザー」といった音色を持っている。

ⓑ　ツーという音色で、バイオリンやトランペットの音作りにも使われ、使いやすい波形でＶＣＦでの加工が容易。コシの強い音作りにも使える。

ⓒ　ＶＣＯで指定したよりも１～２オクターブ下の音程が得られ、ＶＣＯの他の音源とミックスして音を太くする。オルガン系、ベース系には効果が絶大。

ⓓ　波形は幅の細い四角い形状で、音色も細い感じがあり、ハープシコードやギターといったはじく楽器の音色にむいている。

ⓔ　多少間のびした音色で、幅の広い四角い波形だ。クラシックなどの木管系の音楽に向いている。

問5　次の文で、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

①（　）　シンセサイザーのキーボードはコントローラーでなく音源である。

②（　）　ＶＣＡは、電圧によってコントロールされる増幅器のことで、電圧によって音量が大きくなったり、小さくなったりする。

③（　）　ＶＣＡはステレオアンプのようにスピーカーをガンガン鳴らすアンプである。

④（　）　音の３要素とは「音の高さ」、「音の大きさ」、「音の長さ」である。

⑤（　）　ＶＣＦは「音程」をコントロールするモジュールである。

⑥（　）　ＶＣＦは電圧により音色をコントロールする。つまり倍音の含み方の割合を電圧によって変えることができる。

⑦（　）　シンセサイザーの鍵盤はキー数が少ないので音域が狭い。

⑧（　）　シンセサイザーの鍵盤はキー数が少ないがレンジャキートランスポーズのスイッチを使えば広い音域がカバーできる。

⑨（　）　ノイズは雑音であり、シンセサイザーの音源としてふさわしくない。

⑩（　）　ＶＣＦのレゾナンスを上げると自己発振音を起こし、ＶＣＦ自身が音源となる。きれいなサイン波となるので口笛などに向いている。

■下の無料添削券は、あなたが必須提出課題録音カセットテープを提出する時に必要なものです。提出の際は無料添削券1から順に使用し、必要事項を記入のうえ、当、日本音楽アカデミーのテープ（必須提出課題1と2）といっしょに書留でお送りください。

なお、郵送途中での紛失事故も考え、テープの控えを保管されるとよいでしょう。お送りいただいたテープは担当の先生が添削してお返ししますが、その際にシールに検印のないまま返送されたテープは再録音して提出してください。受講期間終了までに2つの検印が必要です。

キリトリ線

返信用の切
手を軽くの
り付けして
下さい

無料 添削券 2

必須提出課題2

★この添削等の使用は、必須提出課題2のテープに限ります。

氏名	フリガナ	会員番号	提出日
		ＭＬ－	年　月　日
住所			郵便番号

キリトリ線

検印シール

ML・課-2

月　日

検

検印のないものは合格点に達しておりません再提出して下さい。

日本音楽アカデミー・シンセサイザー講座

キリトリ線

キリトリ線

キリトリ線

返信用の切
手を軽くの
り付けして
下さい

無料 添削券 1

必須提出課題1

★この添削券の使用は、必須提出課題1のテープに限ります。

氏名	フリガナ	会員番号	提出日
		ＭＬ－	年　月　日
住所			郵便番号

キリトリ線

検印シール

ML・課-1

月　日

検

検印のないものは合格点に達しておりません再提出して下さい。

日本音楽アカデミー・シンセサイザー講座

キリトリ線

シンセサイザー講座

シール台紙

氏名		会員番号	
住所		郵便番号	

このシール台紙は、あなたが「シンセサイザー講座」を修了し、修了証を申請する時に必要なものです。検印済みシール６枚（テスト問題４枚と必須提出課題２枚）を全部はり、のちほど当アカデミーからお送りする申請書に添えて提出していただく用紙です。

受講期間中に、あなたが提出される解答用紙を審査した後、あなたのお手許に返送されますが、そのつど検印済みシールを下の検印済みシール貼付欄にはってご保存ください。

なお、返送されたシールに検印のないものは合格点に達しておりませんので、お早めに再提出してください。

●修了証の申請手続きについて

受講期間中に当アカデミーより、修了証の申請書をお送りしますのでその指示に従って手続きをしてください。

検印シール貼付欄

ML・テ-1	ML・テ-2	ML・テ-3
ML・テ-4	ML・課-1	ML・課-2

※このシール台紙にシールを貼っただけでは申請できません。

日本音楽アカデミー